

2012 年度 産学協同実践的 IT 教育
IT 業界体験インターンシップ
「IT 企画開発・マネジメント実践コース」
参加者向け実施ガイダンス

(Ver. 1.0)

2012 年 7 月 19 日

一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会
人財確保推進委員会

(<http://www.misa.or.jp>)

1. 講座概要

名 称 : 2012 年度 IT 業界体験インターンシップ 「IT 企画開発・マネジメント実践コース」

主 催 : 一般社団法人宮城県情報サービス産業協会 (MISA) 人財確保推進委員会
(地域 IT 関連企業約 160 社で組織する地域随一の IT 業界団体)
MISA は企業講師の推薦、調整、実施費用の負担などを行っております。

目 的 : IT 企業におけるプロジェクトマネジメント手法を用いたシステム開発プロジェクトの模擬体験を通じ、SE 実務を理解する。
ソフトウェア工学、プロジェクトマネジメント、要件定義など現実の情報システム企画開発に必要な基礎実務スキルを身につけることが目的である。

対 象 : MISA 会員企業など地域 IT 企業への就職を希望あるいは検討している大学学部 3 年生 (2 年生)、高専 4 年生、専門学校的高度専門士 4 年課程の 3 年生

※情報処理基礎理論の知識があることが望ましい。

※学内制度で“インターンシップ”が 2 年次実施となっている場合は申出により 2 年生での参加が可能。高専は専攻科 1 年生での参加が可能。

- ・ 本事業は IT システム設計・開発のプロジェクトマネジメントを体験してもらうことが目的です。事前のプログラミング経験はあるに越したことはないですが、プログラミング技術自体の有無は参加にあたっての前提条件にはなりません (IT 業界を志望する文系学生の参加も可能です)。
- ・ 受講者の皆様からは受講申込時に日常的に連絡の取れる連絡先メールアドレスを預かります。受講上の連絡事項は全てメールにて配信します。受講に際しての受講者事前オリエンテーションは行わず、全てメールでの事前連絡とします。

講師企業 :

- ・ 株式会社 PRO & BSC (A クラス)
- ・ 東北インフォメーション・システムズ株式会社 (B クラス)

地域の支援・協力 :

- ・ 本事業は以下の各機関の支援を受けて開催します。

★講師企業

MISA 会員企業の現役 SE 技術者が講師を担当します。

★企業見学企業

MISA 会員企業の協力により、企業見学ならびに社員との懇談会を行います。

★東北電子専門学校

連携教育機関の一員として会場提供と開催当日の講座運営を担当する等、多方面での協力を行います。

個人情報の取扱について :

- ・ 個人情報に関しては、本目的のみ使用致します。また、本データは人財確保推進委員会での保管となります。

開催日程とクラス：

※集合研修および企業見学&懇談会

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
Aクラス： (6h)	8/17 (金)	8/18 (土)	8/20 (月)	8/21 (火)	8/24 (金)	8/27 (月)	8/28 (火)	8/29 (水)	8/30 (木)	11月 上旬 ～12月 中旬頃 成果発表
Bクラス： (6h)					MISA 会員企業 見学& 懇談会	9/3 (月)	9/4 (火)	9/5 (水)	9/6 (木)	

※2クラス個々のカリキュラム・課題演習テーマを提示し、クラス希望の事前調査を実施の上クラス分けを行います。

※(10)成果発表の日程は、後日お知らせいたします。

開催時間：9：30～16：30（講座&企業見学の合計54時間+成果発表会）

※演習等の都合により、終了が若干遅くなる場合もあり得ます。

※終了時間後にはその場で受講者日報の作成があります。

●受講者日報に関して

毎回終了後に記入いただく**受講者日報**に関しては、**記入後その場で紙に印刷して提出してもらいます**。日報は運営側及び講師において研修運営の参考にするもので、受講生の皆様の評価の対象外です。日報に関しては評価を気にせず、**研修をより良くしていく観点から、ありのままに思ったことを**記入してください。

会場・研修運営：東北電子専門学校（駐輪場あり、駐車場使用不可）<http://www.jc-21.ac.jp/>

実施事務局：MISA 人財確保推進委員会 <http://www.misa.or.jp/>

連絡先： ●開催日当日の連絡先；東北電子専門学校 担当 星 TEL 022-224-6501

●開催日以外の連絡先；MISA 人財確保推進委員会 担当 久慈林
(株式会社仙台ソフトウェアセンター) TEL 022-298-3700

●E-mail jinzaikakuho_is_jimukyoku@misa.or.jp

単位認定：制度上認められる場合は学校毎の判断で指定の単位を認定します。

※対象、単位認定の詳細は学校毎に異なりますので、各学校の担当教員等にお尋ねください。

※修了証の発行には講座・企業見学会計54時間の中で8割以上の出席、かつスキル習得評価において一定以上の達成が必要です。但し出席に関しては、就職活動、学内行事等やむを得ない欠席に関しては考慮します。

費用の自己負担：クラスによりテキスト代実費として5千円/人以内の範囲で自己負担を頂く場合があります。また、毎日のPC内のデータ保存用にUSBメモリ等の外部媒体を原則、各自で持参していただきます。

2. カリキュラム

Aクラス

担当講師企業：株式会社PRO&BSC

(担当講師：ファストエンジニアリング事業部 樋口祐紀)

習得できるスキル
<ol style="list-style-type: none">1. 「適応的開発」手法であるアジャイルソフトウェア開発プロセスの基礎を実践できる。2. 基本的な画面設計手法、データ設計手法に基づき設計資料を作成できる。3. PHP の基本文法に基づきプログラミングができる。4. SQL 文を利用してデータベースへの CRUD アクセスができる。5. PHP / MySQL を用いた Web アプリケーションを開発できる。6. PHPUnit を使ったユニットテストを行うことができる。
到達目標
<ol style="list-style-type: none">1. チームワークを保ち、その中で与えられた自分の役割を果たすことができる。2. プロジェクトにおいて自主的にコミュニケーションの円滑化を図ることができる。3. 開発工程や品質を意識した開発ができる。またそれらをドキュメント化して管理できる。4. 開発成果及びそのプロセスを資料にまとめ、プレゼンテーションができる。
推奨前提条件
<p>※下記はあくまで“推奨する条件”です。それぞれ講義中にフォローします。また、未経験者多数の場合には、詳細な講義を行います。</p> <ul style="list-style-type: none">- HTML / CSS / JavaScript (jQuery) のコーディング経験がある。- 任意のプログラミング言語やスクリプト言語にて制御構造 (if / for / while / switch) のプログラミング経験がある。

開発演習テーマ： 社員情報共有システムの構築 (ログイン認証 / 社員名簿管理 / 掲示板 / 資料共有)

回	日	内容
1	8/17 (金)	<p>◆ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none">・ [ミーティング] 自己紹介 (講師、学生)・ [ミーティング] カリキュラムの流れと概要・ [講義] システム開発の手法・ [グループワーク] 開発環境 (The Uniform Server / NetBeans IDE) の試用・ [グループワーク] チーム結成 / メンバーの組織化
2	8/18 (土)	<p>◆提案書の作成</p> <ul style="list-style-type: none">・ [講義] 提案書の作成について・ [グループワーク] 提案書の作成・ [講義 / グループワーク] PHP / MySQL 基礎 (1)
3	8/20 (月)	<p>◆設計書の作成</p> <ul style="list-style-type: none">・ [講義] 設計書の作成について・ [グループワーク] 設計書の作成・ [講義 / グループワーク] PHP / MySQL 基礎 (2)

4	8/21 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ◆テスト手法 / 工数見積もり ・ [講義 / グループワーク] PHP / MySQL 基礎 (3) ・ [講義 / グループワーク] テスト方法と PHPUnit について ・ [開発演習] 機能別の開発 (1) ・ [講義 / グループワーク] 工数見積もりについて
5	8/24 (金)	<p>MISA 会員企業見学&懇談会</p> <p>午前：サイバーコム株式会社 午後：株式会社 東北システムズ・サポート</p>
6	8/27 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ◆開発 ・ [開発演習] 機能別の開発 (2)
7	8/28 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ◆開発 ・ [講義] PHP / MySQL 復習 ・ [開発演習] 機能別の開発 (3) ・ [グループワーク] 統合試験
8	8/29 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ◆仕様変更対応 ・ [グループワーク] 提案書、設計書修正 ・ [開発演習] 仕様変更、実装不足対応
9	8/30 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ◆まとめ ・ [グループワーク] 成果物の整理 ・ [グループワーク] 納品準備 (デモ環境整備) ・ [グループワーク] 成果発表資料作成、発表練習
10	11月 上旬～ 12月 中旬頃	<p>成果発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果プレゼンテーションと質疑応答などを行う。 ※企業・一般からの見学者あり。

※学生の習得具合により、成果物作成範囲の縮小やカリキュラムの調整を行う場合もあり得る。

講師からのメッセージ
<p>本講義では、システム開発の仮想プロジェクトを通じて、開発の進め方、プロジェクト内での役割、Web アプリケーションの開発手法について学ぶことを目的としています。</p> <p>この講義を通じて、顧客の要望を読み取り、「必要とされているシステム」を実現するためのプロセスを体験すると共に、チームでの作業、及びこのマネジメントの難しさ、楽しさ、やりがいを実感して頂くことを期待しています。Let's be agile!!</p>
使用予定教材
<p>※下記はいずれも参考文献です。講義のための購入は求めません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「アジャイルサムライ」 Jonathan Rasmusson, et al オーム社 (2011/07) ・ 「受託開発の極意」 岡島幸男 技術評論社 (2008/04) ・ 「フ・ポ・ワののための PHP 入門 10 日間コース」 アシアル株式会社他 翔泳社 (2008/01)
作成ドキュメント
<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案書 (ユースケース / 紙ベースプロトタイプ) ・ 設計書 (画面遷移図 / 画面設計書 / テーブル構造図 / テーブル定義書) ・ 試験仕様書・結果報告書 ・ その他 (議事録 / 障害管理票)

Bクラス

担当講師：東北インフォメーション・システムズ株式会社

(担当講師：澤田，佐々木，木村，樋口)

習得できるスキル
<ul style="list-style-type: none">・ システム開発における各種ドキュメントを作成できる・ システム開発における品質向上策を実施できる・ チーム作業における役割分担，時間管理が実施できる・ チーム作業におけるコミュニケーションを円滑化できる
到達目標
<ul style="list-style-type: none">・ 情報システムの開発プロセスを理解する・ ドキュメントを作成・維持することの重要性を理解する・ レビューの必要性を理解する・ 意思疎通の難しさを体験する・ チーム作業の喜びを共有する
推奨前提条件
<ul style="list-style-type: none">・ 言語は問わないがプログラミングの経験があることが望ましい (技術は不問)。

開発演習テーマ：せつでんポータル構築

(JavaScript を利用した簡易アプリケーション)

回	日	内容
1	8/17 (金)	<p>【システム開発プロセスの概要】</p> <p>午前</p> <ul style="list-style-type: none">・ ガイダンス・ システム開発プロセスの解説 <p>午後</p> <ul style="list-style-type: none">・ システム開発プロセスの基礎の解説 (つづき) <p>【要件定義】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 開発チームの発表。チーム毎に固まるように席替え (この後はチーム別に作業)・ 今回開発する Web ページの例を見せる・ ユースケース図およびユースケース記述の解説

2	8/18 (土)	<p>午前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例を見ながら、改善案などを出し、どのような Web ページにするのかを検討 (例のままのものを作成しても良い) ・ユースケース図・ユースケース記述の作成 <p>午後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レビューシート作成解説 ・ユースケース図およびユースケース記述をレビューし、レビューシートにまとめる ・レビューを基に、ユースケース図およびユースケース記述を修正 <p>【外部設計】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面概要, 画面遷移図 解説 ・画面概要, 画面遷移図 作成
3	8/20 (月)	<p>午前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面概要, 画面遷移図 レビュー・修正 ・HTML, CSS の解説 <p>午後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面機能設計, 画面レイアウト, 画面項目定義 解説 ・画面機能設計, 画面レイアウト, 画面項目定義 作成
4	8/21 (火)	<p>午前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面機能設計, 画面レイアウト, 画面項目定義 レビュー・修正 <p>【内部設計】</p> <p>午後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JavaScript 解説
5	8/24 (金)	<p>MISA 会員企業見学&懇談会</p> <p>午前：イートス株式会社</p> <p>午後：株式会社 クロスキャット</p>
6	9/3 (月)	<p>午前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フローチャート 解説 ・フローチャート 作成 <p>午後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フローチャート レビュー・修正 <p>【製作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディング
7	9/4 (火)	<p>午前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コードレビュー・修正 <p>【テスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面機能設計, 画面レイアウト, 画面項目定義, フローチャートを元にテスト <p>午後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユースケースを元にテスト
8	9/5 (水)	<p>【納品・開発力向上の取組み】</p> <p>午前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメントの見直し <p>午後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・納品 ・TOiNX における開発力向上のための取組み紹介

9	9/6 (木)	【全体のふりかえり】 午前 ・互いのチームの成果物の品評会 ・質疑応答，チーム毎に反省会 ・成果発表会資料作成 午後 ・成果発表会練習 ・まとめ
10	11月 上旬～ 12月 中旬頃	成果発表会 ・成果プレゼンテーションと質疑応答などを行う。 ※企業・一般からの見学者あり。

※学生の習得具合により、成果物作成範囲の縮小やカリキュラムの調整を行う場合もあり得る。

講師からのメッセージ	
数名で構成するチームを組み、システム開発のプロセスをひと通り体験します。その体験を通して、チームワークとは何か、なぜコミュニケーション力が求められるのかを体得します。また、システム開発プロセスがこのような形になったのはなぜなのかを理解することにより、より良い開発とはどういうものか、そのための取り組みにはどのようなものがあるのか、といったことも意識できるようになります。	
使用予定教材	
使用予定なし	
作成ドキュメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ユースケース図・ユースケース記述 ・ 画面概要・画面遷移図 ・ 画面機能定義，画面レイアウト，画面項目定義 ・ フローチャート ・ テスト結果 ・ レビューシート 	

【各コースの実施に関する補足】

- ・ 講座は、受講者の皆様の習熟度等を踏まえて運営します。具体的には講座の進捗状況等を勘案した実施内容の割愛や追加、テーマ毎の実施ボリュームの調整、関連内容の同時学習などを必要に応じて行います。従って上記カリキュラムは一応の目安とお考えください。また、皆様の個人評価となる理解度チェックに関しても、内容や進捗状況によって講師サイドで都度設定します。

【会場・PC環境に関する補足】

- ・ 使用するPC機器は毎日の講座終了後、すべて初期化します。したがって必要なデータ（特に個人情報）は必ず毎日、USBメモリなど何らかの外部媒体への保存を各自で行っていただきます。

3. 講座に関する各種ドキュメント

	様式名称 (様式番号)	記入・提出方法等
1-1 運営関係 (受講者)	受講者日報 (1-1-1)	配 布：フォーマットを講座開始時に講師よりデータ配布 提出時期：毎回の講座終了後 提出単位：各個人毎に1部 提出方法： 終了後各自でWORD作成し、1部をプリントアウトし会場の専用提出箱に紙で提出。 加えて、データを担当講師へ提出。 ※受講者日報は受講者評価対象外
	プロジェクト総括表 (1-1-3)	配 布：フォーマットを講師よりデータ配布 提出時期：9回目の講座終了後 提出単位：チーム毎に1部 提出方法： チームで担当を決めて作成し、データを担当講師へ提出。
1-2 運営関係 (講師)	講師指導日誌 (1-2-1)	毎回終了後に講師側にて実施した内容と全体講評を取りまとめてWORD上で記入し、添付ファイルで実施事務局へ提出。
	(プロジェクト評価表) (1-1-3)	受講者提出のプロジェクト総括表(様式1-1-3)に対して、講師側での全体講評を記入し、成果発表会前までに添付ファイルで実施事務局へ提出。
2-1 評価関係 (受講者) (講師)	理解度チェックシート (2-1)	配 布：講師から都度データ配布 提出時期： 単元終了毎(2回～3回に1回程度) 提出単位：各個人毎に1部 (担当講師へデータにて提出) 提出方法： 講師指定のタイミングで講師提示の到達目標に関する理解度自己評価を実施し担当講師へデータにて提出。 ※受講者の自己評価に対しては講師側で別途妥当性評価を行う。
	スキル習得証明書 (見本)	受講者の自己評価も基にしながら講師評価を行い、本コースとしての個人評価とします。 見本のようなスキル習得証明書をコース修了者に対して、成果発表会終了後に発行します。

※ 各様式フォーマットは、講師経由でデータにて受講者へ配布します。

様式 1-1-1

受講者日報

提出日：2012年 月 日（ ）

受講番号		氏名	
------	--	----	--

- 本日の講義の内容を振り返り、主な学習内容を3つまで簡単に箇条書きにしてください。
また、それらに対する理解度を3段階で自己評価し当てはまる番号を欄に記入してください。
(3. 良くできた 2. 普通 1. やや不安)

学習内容の箇条書き (振り返り)	自己評価 (番号)
・	
・	
・	
・	
・	
・	
<講義を受けてよく理解できなかった点がありましたら具体的にお聞かせください。>	

- 今日の学習を振り返ってみて、本日の収穫や明日以降の抱負など感じたことを記入ください。

--

- 講師へのメッセージ、研修運営面での要望などがあればお聞かせ下さい。

--

※受講番号の例：Aクラスの1番の受講生はA01、Bクラスの1番の受講生はB01

様式1-1-3

プロジェクト総括表

(1) 体制

プロジェクト名		クラス	
作成日	2012年 月 日	担当講師	
作成者氏名			
プロジェクトリーダー	氏名：	学校・学年：	
プロジェクトメンバー	氏名：	学校・学年：	
	氏名：	学校・学年：	
	氏名：	学校・学年：	
	氏名：	学校・学年：	
プロジェクト期間	2012年 月 日 () ~ 月 日 ()		

(2) 概要

プロジェクトの目的	
開発システムの概要	
開発環境	

(3) 総括

	総括内容コメント	講師評価 (※講師記入)
設計フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● うまくいった点・工夫点／配慮点など ● 苦勞した点、失敗した点 	

開発フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● うまくいった点・工夫点／配慮点など ● 苦勞した点、失敗した点 	
テストフェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● うまくいった点・工夫点／配慮点など ● 苦勞した点、失敗した点 	
プレゼンテーションフェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● うまくいった点・工夫点／配慮点など ● 苦勞した点、失敗した点 	
講師全体講評（※講師記入欄）		

欄が不足する場合は各自表の拡張等を行ってください。

様式1-2-1

講師指導日誌

クラス 講師：		2012年度 IT 業界体験インターンシップ 産学実践 IT (MISA)
	指 導 内 容	指 導 所 見
第1回 / ()		
第2回 / ()		
第3回 / ()		
第4回 / ()		

	指 導 内 容	指 導 所 見
第6回 / ()		
第7回 / ()		
第8回 / ()		
第9回 / ()		

様式2-1

理解度チェックシート

提出日：2012年 月 日 ()

学校名			
受講番号		氏名	
対象回	第 回～第 回 講座		

※受講番号の例：Aクラスの1番の受講生はA01、Bクラスの1番の受講生はB01

チェックテーマ (※講師記入)	チェック項目 (※講師記入)	自己評価 (割合)	自己評価コメント	講師評価 (割合)
特記事項				

評価基準：大変良い期待以上(100～90以上)，良い期待レベル(90未満～80以上)，一歩足りない(80未満～60以上)，
まだまだ足りない(60未満～40以上)，全然足りない(40未満)

基準を参考に当てはまる割合を任意の数字で記入してください (0～100)

人財 確保 殿

貴殿は「MISA・IT 業界体験インターンシップ」において、ソフトウェアの企画構想から設計・開発テストまでの開発プロセスを経験するとともに、実践技術やプロジェクトの進め方など IT 実務に必要な知識と技能を下記のとおり習得した事を証明します。

平成24年××月×日

一般社団法人宮城県情報サービス産業協会

会長 石塚 卓美 印

コース名：IT 企画開発・マネジメント実践コース（Bクラス）（出席：54時間）

担当講師：（ 株式会社）

講座の目的：プロジェクトの一連の流れをロールプレイング形式で行い、チーム形成の為の技術力をプロジェクトマネジメントの観点から学び、コミュニケーション能力を取得

1. 習得したスキルと理解度評価

・システム開発プロセス（理解度：80%）

- ・システム開発の工程・手法
- ・ロールプレイング

・設計（理解度：90%）

- ・顧客とのレビュー
- ・外部設計書の作成
- ・詳細設計書の作成

・開発（理解度：75%）

- ・製造（HTML、CSS、JavaScript）
- ・単体テスト

・テスト・納品（理解度：75%）

- ・システムテスト
- ・顧客への納品及びレビュー
- ・仕様書の変更
- ・ドキュメントの整理

2. IT 開発マネジメントの推進

達成度：90%（主導レベル：チームワークでの設計・開発を主導した）

- ・情報システム開発の一連の流れを経験しチームとして成果を上げ、発表を行った。
- ・他校の学生を交えたチームでの情報システム開発プロジェクトを成し遂げた。

4. 受講にあたっての確認事項

(1) 研修時間について

- ・ 講座は原則として9：30～16：30ですが、終了後に受講者日報の作成がありますので、最低17：00頃までは時間を確保するようにしてください。また、朝は遅刻者を待たず定刻より開始しますので遅れないようにお越しください。

(2) 出欠・修了要件について

- ・ 本研修は、**講座・企業見学（全9回）合計54時間の中で8割以上の出席**、かつ**スキル習得評価において一定以上の達成**が最低修了要件となります。単位認定のある学校学生はこの修了要件がそのまま単位認定推薦条件となります。
- ・ 出席は毎日確認いたしますので、予めご承知おきください。30分までは遅刻とし、それを超える場合は欠席とします。また、交通機関の遅延等を除いた個人的都合による遅刻や振替受講は認められません。
- ・ やむを得ず遅刻・欠席する場合で、予めその旨が分かっている場合は、事前に必ず講師または所定連絡先（P.2）までお申し出ください。
- ・ 交通機関の遅延など突発的事情で当日やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず東北電子専門学校担当（P.2 当日の連絡先）までご一報ください。無断遅刻や欠席があると修了条件に影響するだけでなく、講座運営上も他の受講生に迷惑がかかりますのでご協力願います。

(3) 受講番号・氏名の確認について

- ・ 皆様の受講番号は別紙名簿の通りです。**受講者日報等の該当欄にも受講番号を必ず記入してください。**
- ・ 別紙名簿を確認し、**皆様の氏名等に誤りがある場合は初日にお申し出ください。**

(4) 受講姿勢の大切さ

- ・ 講座終了後、不明点等があれば必ず**講師に自分から積極的に質問し理解度をあげる努力を常に行ってください。**受身でなく自己責任で自分から行動する癖をつけるのも重要ですし、研修ではこうした受講態度も評価の一つとなります。講師は実務家であり、学校と異なり受身では誰も助けてくれません。本講座は受講後の卒業研究あるいは就職後の実務を意識した、自立的な調べる癖や聞く癖の養成もひとつの狙いとしておりますので、それをしっかり意識して講座や自学自習に臨んでください。

5. 受講生への依頼事項

(1) 受講後アンケートについて

- ・ 9日間の講座（含む企業見学）について、受講後にアンケートの記入をお願いします。受講後アンケートの回答内容につきましては、講師や協力企業ならびに教育機関にフィードバックさせていただき、今後の企画、運営をよりよいものにするために活用させていただきます。
- ・ 締め切り 9月24日（月）

なお、受講後アンケートは次のURLからダウンロードしてください。

http://www.misa.or.jp/?page_id=393

記入後は下記メールアドレスに送信をお願いします。

jinzaikakuho_is_jimukyoku@misa.or.jp

(2) IT業界就職時のフィードバックについて

- ・ MISA IT業界体験インターンシップの取組成果を測る上で、受講生の皆様がどれくらいIT業界へ就職したか、就職に結びついたかが一つの指標になります。皆様から受講のためにお預かりした個人情報は、インターンシップ期間中の皆様と事務局との連絡だけに使用しますので、受講終了後、MISAから就職等に関して追跡調査を行うことはありません。皆様の自主的判断による情報提供が唯一の手段になります。IT業界へ就職した際には、MISAにその旨のご連絡をお願いします。

以上